



平成27年6月19日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所

～海外港湾従事者の技術力向上に貢献～ ケニア国港湾公社職員が名古屋港を視察しました (開催報告)

1. 概要：

中部地方整備局では、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している、平成26年度ケニア国別研修「ケニア国モンバサ・ドンゴクンドゥ港開発計画策定支援プロジェクト」の一環として平成27年6月17日（水）にケニア国港湾公社の職員を名古屋港にて受け入れ、港湾施設等の視察を行いました。

研修員はケニア国港湾公社職員4名が参加。中部地方整備局名古屋港湾事務所の業務艇「翔龍」に乗船し、名古屋港の物流・産業機能の説明や高潮防波堤の防災機能についての説明を受けながら、新宝・飛島・金城・鍋田ふ頭など名古屋港内の視察を行いました。

その後、名古屋港を代表する物流施設の一つであるNUCT（名古屋ユナイテッドコンテナターミナル）に移動し、国内最高クラスの貨物取扱量を誇る鍋田ふ頭の荷役作業等の視察を行いました。



【名古屋港の概要説明】

2. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

3. 配布先：

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ
港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先：

中部地方整備局 港湾空港部 (<http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>)

港湾物流企画室長 柴田（しばた）、課長補佐 澤田（さわだ）

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

中部地方整備局 名古屋港湾事務所 (<http://www.nagoya.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>)

企画調整課長 板生（いたお）

Tel 052-651-6763 Fax 052-652-0303

□研修の様子(詳細)

本研修は、日本の港湾計画・港湾管理運営体制、背後の工業地域・高速道路などと一体での港湾整備及び最新の港湾施設視察や座学を実施し、今後のモンバサ港の適切な港湾施設整備計画の策定、ケニア国港湾公社職員の能力向上を図ることを目的に実施されています。

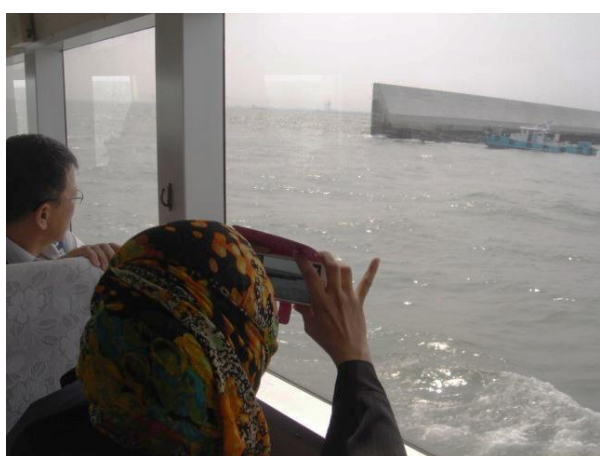
1. 研修の参加者と行程

(1) 出身国・所属 : ケニア国港湾公社職員 4名

(2) 行程(概略) : 13:30~14:20 名古屋港内視察(船上)

14:30~15:30 NUCT(名古屋ユニテッドコンテナミナル(株)) 視察

16:10~17:00 名古屋海洋博物館 視察



【名古屋港高潮防波堤を視察】



【港内視察を行うケニア国港湾公社職員】



【NUCTのコンテナ貨物荷役状況の視察】



【名古屋海洋博物館の視察】

2. 視察の様子

●(視察後の感想) 視察後にケニア国港湾公社職員に感想をお聞きしたところ、

「名古屋港は、物流拠点と自動車等の産業拠点が集まった大きな港であると感じた。」

「開発中のケニア国・モンバサ港は、コンテナ貨物をアフリカ内陸部へ輸送しており、港湾の物流機能を発展させていきたい。名古屋港のコンテナ貨物の荷役は、ガントリークレーンとトランスファークレーンが一体的に稼働し、荷役効率化が図られており、印象に残った。今後、日本で学んだ港湾技術と名古屋港で実体験したことを活かしていきたい。」

といった感想を述べられました。